EA840DA （12V)電動ウィンチ取扱説明書　　アメリカ

⚠ 注意:　電動ウィンチに取付けたり、操作したりアフターサービスする前に注意して取扱説明書を読んで下さい。取扱説明書に従わなければ、重大なケガあるいは死に至る場合があります。今後の参考のために説明書を保管しておいて下さい。

⚠ 重要安全情報

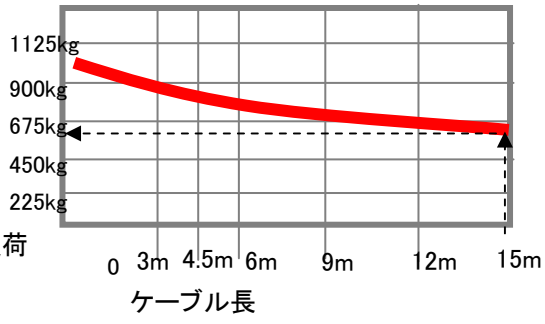
警告:読み間違えたり、下記の説明書に従わなければ重大なケガあるいは死に至る場合が あります。

1. ホイストのように上げたり、支えたりするのに使用しないで下さい。
   あるいは人を引っ張ったり、人のいるところの上部にあげたりしないで下さい。
2. このウィンチは人を動かすようには作られていません。
   足場を上下させたり、エレベーターに使用したり、人をのせたりして使用しないで下さい。
3. この電動ウィンチは動力装備として重んじられています。
   ウィンチを使用する際危険がはらんでいます。
   絶対に子供やウィンチの操作を知らない人に使わせないで下さい。
4. ウィンチの安全荷重を絶対に超えないで下さい。
   移動荷重が大きすぎたり、巻取り時あるいはその他の時は、強力な力が生じます。
   普通のケーブルより長いものを取付けるとウィンチにかかる荷重が増加します。
5. ウィンチは能力に応じた高品質の航空機用のケーブルがついています。
   絶対に決められた能力を超えないで下さい。
   ウィンチの引っ張る力の増すような乗り物を使用しないで下さい。
   テンションのある状態で、ケーブルが破損した時ケーブルはウィンチの方に激しく波打ちます。
   ケーブル破損の場合の波打ちを少なくするためにケーブルの上に毛布や敷物を掛けて下さい。
6. ケーブルが完全にのばされた状態で荷物を付けないで下さい。
   少なくとも3巻のケーブルをリールに残して下さい。
7. ウィンチを操作している人以外はウィンチに近づけないで下さい。
   荷物とウィンチの間に絶対に立たないで下さい。
8. D. C12Vのウィンチは低いD. CVの力（例えば車、トラックのバッテリー）で作動します。
   A. C100Vにウィンチを接続しないで下さい。
9. ウィンチの操作が終了した時、荷物をウィンチに付けたままにしないで下さい。
   常に荷物を適切に固定して下さい。縛り付けるストラップやチェーンを使用して下さい。
10. 補助ハンドルは緊急時のみに使用して下さい。モーターが作動している時に補助的な物として補助ハンドルを使用しないで下さい。補助ハンドルを使用しない時は常に外しておいて下さい。
    ハンドルを付けている状態でウィンチモーターを操作したり、ウィンチを空回りさせないで下さい。
11. 作動中、手や指をドラムやウィンチのケーブル付近から離して下さい。
    ケーブルをドラムに巻き戻す時に手で引かないで下さい。
12. ウィンチはウィンチの能力を超える荷物を支える能力のある枠にしっかりと取り付けて下さい。
    自動車にウィンチを取付ける時、取付ける部分が堅く自動車の枠に支えられているか確認して下さい。
13. クラッチで荷物をときはなす時は、スピードのコントロールをして下さい。
    過度のスピードはウィンチにダメージを与え、重大なケガにつながります。

注意　使い始めは下降時に煙が出る事がありますが、ブレーキディスクに付着するオイルによる物で問題はありません。
連続使用時間は3分以内にしてください。

⚠ **重要**

電動式ウィンチの作業率につきまして
電動式ウィンチは間欠的に使用してください。
能力一杯に長い時間使用する時は、モーターを休ませて冷やしながら使用してください。
右表の作業はケーブル長3mごとのものです。



○ ケーブル長が伸びるほど負荷は
　引張る重量は小さくなります。
例）15m連続で引く時の最大荷重は650kg以下です。

◇取付け説明書

1. 取付ける面は、決められた能力を超える荷重を十分に支える力があるか確認して下さい。
2. ウィンチをトレーラーウィンチスタンド（あるいは他の取付ける面）に3つの1／2″ ボルト,ナット ワッシャー、ロックワッシャーでしっかり固定して下さい。
   ウィンチはケーブルがウィンチの前にあいている部分にすれないように位置を定めて下さい。
3. ボートトレーラーに取付けの際は、ウィンチスタンドはボートをトレーラーに完全に積んだ時、ボー トのへさきの荷重リングがウィンチドラムと同じ高さかわずかに高くなるように調節して下さい。
   トレーラーのへさき止めは、ケーブルフックがトレーラーボートを完全に積んだ時、ドラムに引っ張られないようにするためにウィンチドラムの後ろに十分に離します。
4. ベケット付滑車を使用する時は、ウィンチの土台近くにアイフックをケーブルフックを固定するために取付けます。（図1参照）アイフックがウィンチの耐荷重に持ちこたえる十分な力があるか確認します。

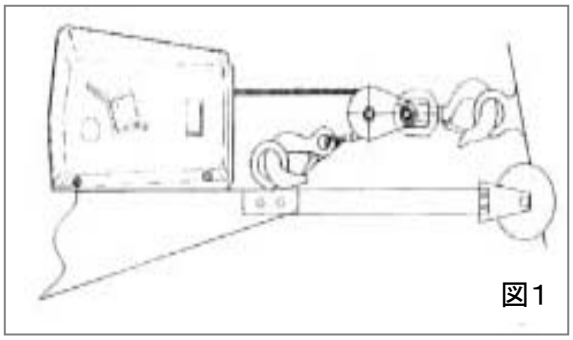


図1

5. ウィンチは土台に必要な時にすばやくスタッドを取付けて使用するためのかぎ穴が付いています。（図2参照）早急にスタッドを取付けて使用したいならウィンチスタンドにしっかり取付けなければなりません。スタッドにウィンチの位置決めをした後、ウィンチをしっかりと固定できる位置に3／8″のボルトでとめて下さい。

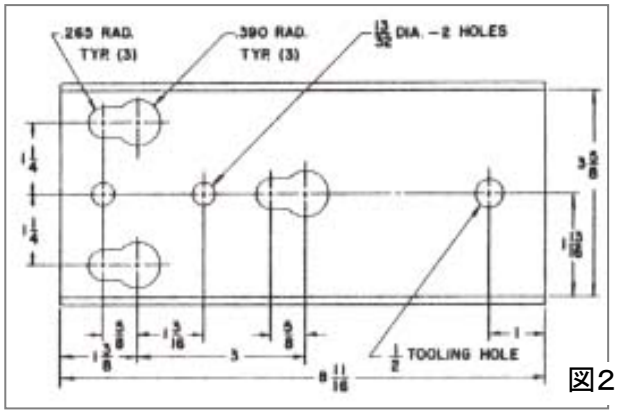


図2

◇ワイヤリングハーネスの取付け

ワイヤリングハーネスを使用しない時は、車のトランクに入るように作られています。
ハーネスは電気的にウィンチを操作するのに必要です。
使用しない時は、誤用を防ぐためにウィンチから取り外して収納して下さい。

1. 車のトランクのつなぎやすい穴に（＋）線を通して下さい。
   トランクの底の部分から不要なネジやゴムのはと目を取除く必要があります。
   そしてまた車の下に、ワイヤーを通すために（＋）線からブレーカー部をいったん取除いて下さい。
2. エンジン部に入ってバッテリーまで車の下側に沿って（＋）線を引きます。
   ワイヤーを排気やその他の熱い部分あるいは動く部分に触れていないか確認しながら車台にしっかり固定します。ワイヤーはたるみなくしっかりと固定して下さい。
   余分なワイヤーはトランクに保管して下さい。
3. ブレーカーを（＋）線に（ナットやボルトタイプの場合）しっかり固定して下さい。
4. 1／4″ のボルトやロックナットを使用して、（－）線を自動車のフレームに取付けて下さい。
   しっかりと接続したか確認します。

注：ウィンチが乗用車の前にのせられていたら、確実に必要な長さのハーネスをカットします。
もし、継ぎ合わせする時は、きつく、しっかり取付けて下さい。
上の4で記述されているようにアースを取り付けて下さい。

◇操作方法

1. ワイヤーの端のスイッチ部をウィンチハウジングのポケットに差し込みます。
   スイッチを差込んだり、取り外したりする際は過度の力を加えないで下さい。
   バッテリーが最高の状態でない場合は，作業する前に車のエンジンをかけて下さい。
2. クラッチレバーがエンゲージギアの位置でスイッチを巻き取り（LOAD）あるいは解放（UNLOAD）のどちらかにします。
   スイッチをOFFの位置にすると自動的にウィンチはとまり、荷物がその位置に止まります。

警告：過負荷を避けるサーキットブレーカーが付いていますが、
過負荷が生じないように特に注意して下さい。
ウィンチと荷物が引っ張られる音に注意して下さい。
巻取り時に突然ケーブルテンションが強くならないかを確かめて下さい。

注意：電動モーターは断絶的に使用するようになっています。
冷却期間なしで延長して使用するとオーバーヒートが起こり
モーターにダメージを与えることになるます。
最大継続時間は4分です。

3. ボートをトレーラーで引くのにウィンチを使用する時、適切なへさきや仕切板にストラップやチェーンで押さえてしっかりとトレーラーの上にボートを固定して下さい。ボートをトレーラーにしっかりと取付け、牽引中にウィンチにダメージを与えたり、激しいショックを荷物に与えたりしないで下さい。
4. ウィンチで巻く作業を完全に終えた時、常にスイッチは外しておいて下さい。

◇クラッチでの操作方法

1. クラッチレバーは動力なしで荷物を降ろす時や手で引っ張る時に使用します。
   クラッチレバーにはエンゲージとフリーの2段階があります。

2. 電源なしで荷物を降ろす時、クラッチレバーをフリーの方向へゆっくりと注意して回して下さい。
   荷物が動き始めたら、クラッチレバーでコントロールします。
   レバーを注意してゆっくりと動かすと、荷物をスムーズにコントロールできます。

警告：常に荷物のコントロールをして下さい。
過度なスピードで操作するとウィンチにダメージを与えたり
人身事故につながります。

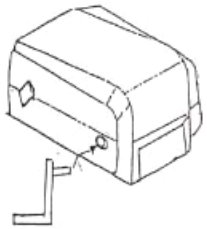
3. クラッチのフリーの位置ではギアとブレーキは完全に離れていることを覚えておいて下さい。
   そして、ウィンチを動かすため、あるいは荷物を定位置に保持するためにはレバーは
   エンゲージの位置に戻して下さい。

◇補助ハンドル

1. 補助ハンドルは、停電または電力不足の時に使用して下さい。
   ウィンチの電源を切って下さい。

警告：絶対に補助ハンドルを取付けた状態で、ウィンチを電力で操作しないで下さい。

2. ボディの側面の丸いプラスチックのプラグを取除いて駆動シャフトに
   完全にハンドルを差し込みます。ハンドルはエンゲージの位置で
   どちらかの方向にクランクを回すことができます。簡単にクランクを回すには
   クラッチは補助ハンドルを固定している時フリーの位置にします。



警告：クランクを回すためにクラッチをフリーの位置にしたら、
常にハンドルのグリップをしっかりとしているか確認して下さい。
この安全な特長があってさえも、ウィンチを止めるためにクラッチを再使用する前に
2回転激しく回ります。コントロールに気をつけて下さい。

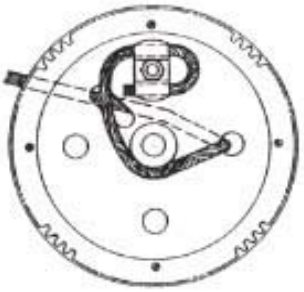
3. 常に使用した後はウィンチからハンドルを取って、丸いプラスチックを元の位置に取付けて下さい。

◇ウィンチのメンテナンス

長持ちして、トラブルのないウィンチの操作をするには、必要なメンテナンスや点検が必要です。
そして塩水の地帯や過度なほこりやごみの地帯では、より頻繁にメンテナンスをして下さい。

1. 欠陥や擦り切れた部分や特異に堅かったりしてないかウィンチのケーブルを注意して調べて下さい。
定期的に注油はして下さい。ケーブルも改善します。
ウィンチのケーブルを取替えるためには、2つのクラッチハンドルのネジを取って、クラッチハンドルと4つのボルトを取除いて下さい。
電力がハウジングに接続されてないか確認して下さい。
そして、前方の角の低い部分のウィンチからハウジングを穏やか に伸ばして持ち上げて下さい。
古いケーブルを取り除いて、同じサイズの新しいケーブルに取替えます。
ロープのクランプの両サイドの下にケーブルが通っているいか、クランプがしっかりと締められているか確認して下さい。

注:ケーブルはドラムの上を通って曲げられます。



2. 上記のようにカバーを取除いて、ギアーやドライブシャフトを摩耗や緩みがないか点検して下さい。
ウィンチベースの内側のギアーの全てに油を注して下さい。
また、非常に控えめにクラッチの全てのベアリングに油を注して下さい。
そして、ローラークラッチの上に油を1滴注して下さい。
これらのエリアには油を注しすぎないで下さい。
ローラークラッチに油がのっている状態で使用しないで下さい。
クラッチやブレーキパッドやブレーキディスクは清潔にして、油をつけないで下さい。

3. ローラークラッチの運転をチェックして下さい。
注意してブレーキディスクを回転させて、モーターシャフトを観察して下さい。
ディスクが時計廻りに回転する時は、モーターシャフトも一緒に回転します。
ディスクが反時計廻りに回転する時、モーターシャフトは回転しません。
また全てのナット、ボルト歯止めリングなどがきつくしっかりとした状態かをチェックして下さい。

4. 錆がないかあるいは接点を確かめるのにスイッチをチェックして下さい。
カバー固定バネに両ピンがしっかりとはまっているか、適切に固定されているか確認して下さい。

5. クラッチが滑った時は次の処理をして下さい。クラッチは10段階の調整ができます。
ドライバーやプライヤーでウィンチベースの穴からクラッチスプリングの端を取除いて下さい。
スプリングのテンションは、かなり強いのでスプリングをしっかり保持して下さい。
O-リングは回転させなければならないので、切り取られている部分は、
スプリングキーパーのラグと一直線に並べます。　（図6参照）

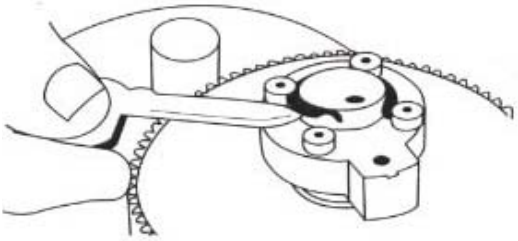
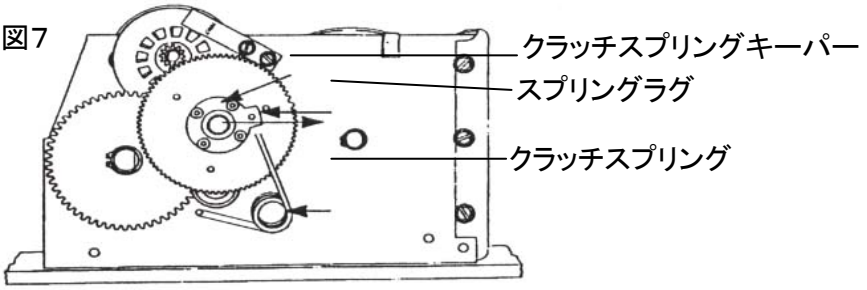


図6

リングは鉛筆あるいは、それに似た物で広げることができ、スプリングキーパーは
クラッチナットなしで引き上げられます。
キーパーを時計廻りに10段階回し、クラッチナットの突起に取付けて下さい。
O-リングの切り取られている部分がスプリングキーパーのラグと一直線に並ばないようにO-リングを
わずかに回します。そして、ベースの穴にクラッチスプリングを再度取付けます。
10段階から20段階以上のクラッチの調整は、通常必要ではありません。
バネの圧力のみで(クラッチを力ずくで締めないで下さい)スプリングキーパーのラグは
およそ時計の2:30の位置で停止します。(図7参照)

図7



6. 滑車装置とフックを滑車スペーサーに自由に回転するか確認するためにチェックして下さい。
場合によっては、これら2つの部分に油を注して下さい。

株式会社エスコ
本社／〒550－0012 大阪市西区立売堀3－8－14
TEL／(06)－6532－6226(代)　FAX／(06)6541－0929